



令和2年12月 静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場ニュース

令和2年度水産・海洋研究発表会を開催しました

水産・海洋研究発表会は、当研究所の研究を広く県民に知っていただくために、例年本所のある焼津市で開催しています。今年度は新型コロナウイルス感染予防のため、発表会場の本所（焼津市）と伊豆分場・富士養鱒場（富士宮市）・浜名湖分場（浜松市）をリモートでつないだウェブ会議形式で11月25日に開催しました。伊豆分場からは鈴木研究員が「30年後のマダイ資源を予測する」を発表しました。これは栽培漁業が行われているマダイについて将来の資源量を予測する数理モデルを開発して、資源を持続的に利用するための種苗放流数と漁獲量を明らかにした研究です。発表後には、研究対象とした資源の範囲や栽培漁業の経済効果の予測について質疑応答が行われました。この他に、ウナギやニジマス養殖の最新技術や食中毒の原因となるヒスタ



↑ コロナ感染予防のために参加者数を制限して開催しました

ミンの簡易検査法などについての発表が行われました。伊豆分場での参加者からは、普段はあまり聞くことができない水産加工の発表が聞いて良かったとの感想がありました。

漁業高等学園の生徒伊豆の水産学ば

11月24日に県漁業高等学園（焼津市）の生徒16名が下田市を訪れ、伊豆漁協でキンメダイ底立てはえ縄漁業や市場・漁協の仕事について、当场で伊豆地域の漁業や水技研の業務について研修しました。当场では展示室や飼育実験室の見学、イセエビの幼生採集の見学など、どの生徒も興味を持って取り組んでいました。底立てはえ縄漁師を目指す生徒もいるとのことで、将来、伊豆の漁業の担い手となってくれることを期待します。



↑ 屋外水槽の飼育生物を見学

駿河丸によるバラムツ釣獲調査

キンメダイ漁における食害対策の一環として、駿河湾内で県調査指導船「駿河丸」によって、食害魚のバラムツの釣獲調査を11月16～17日に実施しました。今回の調査では、尾叉長85cmと90cmのバラムツを釣獲しました。解剖したところ、1尾は空胃でしたが、もう1尾はイカを捕食していました。今後も釣獲調査を続けることで、生物情報の収集を行い、食害対策に役立てていきたいと考えています。



↑ 釣獲したバラムツ

解説：バラムツは熱帯・温帯域に広く生息する大型魚。オイルフィッシュとも呼ばれ、筋肉にワックスが多いため、食品としての流通が禁止されている。

12月の予定 ●12/3にブリ資源評価会議がウェブ開催されます ●12/4に第26回静岡県青年・女性漁業者交流大会がオンラインで開催されます ●12/16～17に長期漁海況予報会議がウェブ開催され1～6月の海況・漁況が検討されます ●西伊豆地域の水産物流通効率化試験を行います

連絡先：静岡県水産・海洋技術研究所伊豆分場 〒415-0012 下田市白浜251-1 電話：0558-22-0835

アドレス：suigi-izu@pref.shizuoka.lg.jp ホームページ：https://fish-exp.pref.shizuoka.jp/izu

会場には、自由に見学できる展示施設があります。皆様のお越しをお待ちしています。